

『時事直言』 No.1540 2022年4月5日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[twitter 日本語] t_masuda2019/

[instagram] t_masuda2019/

[mail] info@chokugen.com

[twitter 英語] T_Masuda_eng/

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

日本人の天賦の使命

第一次大戦が終わり、二度と戦争を繰り返さないようにとの願望から、アメリカのウィルソン大統領の肝入りで平和維持機関としての国際連盟が設立され戦勝国も敗戦国も加盟した。

しかしドイツの欧州進攻、日本のアジア領土拡大などで国際政治均衡が崩れ世界は第二次大戦へと進んだ。

第二次大戦は1945年8月6日(広島)と9日(長崎)へのアメリカの原爆投下で終わり、戦後国際紛争を平和手段で解決する為の国際連合が設立された。

国連の最高意思決定機関である安保理常任理事会は核保有国のアメリカ、イギリス、フランス、ロシア、中国の5か国からなり、他国の核保有を禁止することで核寡国として世界5大指導国となったが民主国家のアメリカ、イギリス、フランスと中国、ロシアの全体主義国家との利害対立で地域、国際戦争を止める機能を失っている。

世界の「政治と経済」は、人で言えば「命とカネ」に匹敵する。

「命あってのもの種」だから人にとって命はカネより優先する。

カネは命の為に必要なものであり、また手段でもある。

ところが人間は歴史が始まって以来「カネがモノをいう」資本主義社会の下で矛盾に満ちた生活を余儀なくされている。

個人生活では命、社会生活ではカネが第一。

人類の歴史が「戦争の歴史」であるのは命(国民)よりカネ(国益)が優先する矛盾からである。

ウクライナ戦争もロシアの安全保障(国益)のためにウクライナの国民とロシアの国民を犠牲にしている。人間は確かに社会なしで生きて行けない。(人間は川面の一本の葦でしかないが、社会的葦である一バスカル)

国家は自国の国民の為に他国と戦い、結果両国の国民が犠牲になるという矛盾を繰り返している。

日本を訪れた4,000万人を超える外国人が口を揃えて「日本は神の国だ!」と言う。

誰も神には従うものだ!

日本人は「仏作って魂入れず」ではなく、人類の歴史から戦争を無くす為、「仏(資本主義)に魂を入れる」ことを使命と心得るべきではないのか。

明日から外国へ行く日本人は、少しでもいいから人の為になることをするよう心掛けてもらいたい。

自分は神の国の使者なのだと言う自覚と誇りを持っていただきたい。

やがて核戦争も起きかねない今こそ、一人一人の日本人が神から与えられた「与えるDNA」を発揮する時ではないのか。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。